

2/1 朝日

88歳の一人暮らし猫16匹と

介護とち わたした

衛生で気になるので連絡しました

介護の相談窓口となる京都市岩倉地域包括支援センターに警察から電話がありました。

88歳の男性は妻と死別して一人暮らし。子どもはいない。「大事なものを盗まれた」と訴え、本人が警察を呼んだ。介護保険など

月で20年。この20年で大きく変わったのは、介護にかかる家族のあり方だ。

「独居」や「老夫婦」世帯が増えた家庭の姿容のうねりのなかで、かつては想定されていなかった課題が生じている。

「猫が何匹もいて、日本は認知症のようです。不

と暮らす。
身寄りはないが家族同然のペットがいる。そんな高齢者が増えている。介護が必要になったとき、愛犬・愛猫の世話ができる家族はない。現在の介護保険はこうした状況を想定していない。現在の介護保険は、いよいよ社会問題に直面したのは、この男性が初めてではなかった。

らず、現実と制度のはざまで現場は苦悩している。松本さんがペット問題にトーキーを作った。費用の不足アド一週間にわたる「捕獲作戦」を実施。去勢・避妊手術を落ませた。数匹はボランティアを通じて譲渡。残りは現在も男性を置いて撮影。一猫リストを置いた部屋を石油ストーブを1匹ずつ撮影。一猫リスト



88歳男性が猫と一緒に寝起きしている部屋。猫が自由に出入りできるよう常に戸を少し開けている=2019年12月、京都市

介護保険スタートから4月で20年。この20年で大きく変わったのは、介護にかかる家族のあり方だ。

「独居」や「老夫婦」世帯が増えた家庭の姿容のうねりのなかで、かつては想定されていなかった課題が生じている。

「猫が何匹もいて、日本は認知症のようです。不

と暮らす。
身寄りはないが家族同然のペットがいる。そんな高齢者が増えている。介護が必要になったとき、愛犬・愛猫の世話ができる家族はない。現在の介護保険は、いよいよ社会問題に直面したのは、この男性が初めてではなかった。

トーキーを作った。費用の不足アド一週間にわたる「捕獲作戦」を実施。去勢・避妊手術を落ませた。数匹はボランティアを通じて譲渡。残りは現在も男性を置いて撮影。一猫リストを置いた部屋を石油ストーブを1匹ずつ撮影。一猫リスト

を補うため、医師や介護職らが集まる研修会で寄付を募った。ため、出勤前などの空き時間に男性宅に立ち寄り、猫

の自宅を訪ねると、糞尿の臭いが鼻をついた。男性し、急いで介護保険の申請をした。認定は要介護2。

トーキーを作った。費用の不足アド一週間にわたる「捕獲作戦」を実施。去勢・避妊手術を落ませた。数匹はボランティアを通じて譲渡。残りは現在も男性を置いて撮影。一猫リストを置いた部屋を石油ストーブを1匹ずつ撮影。一猫リスト

を補うため、医師や介護職らが集まる研修会で寄付を募った。ため、出勤前などの空き時間に男性宅に立ち寄り、猫

